

株式会社日本ビジネスデータプロセッシングセンター

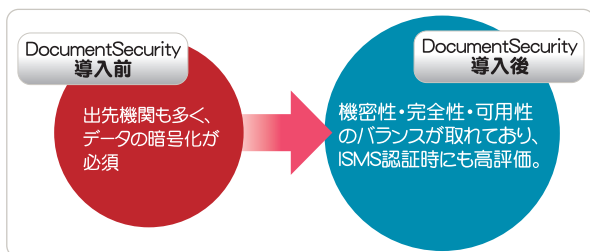
## プライバシーマーク認定、ISMS認証において最適なセキュリティ対策ツール

日本ビジネスデータプロセッシングセンターは1968年に設立された総合情報処理サービス会社。一般的な情報処理サービス業としての事業だけでなく、総合病院の運用から業務管理まで行う「総合情報処理サービス業」を営んでいる。

病院関連の業務管理を行っていることもあり、扱う情報は非常にセンシティブだ。信頼が重要であり、プライバシーマーク取得にあたり、2004年3月に「DocumentSecurity」を導入した。その後、2005年にはISMSの初回認証も受けている。そこで、プライバシーマーク認定・ISMS認証時に、セキュリティ構築を担当されたソリューションサービス技術本部 取締役本部長 武田雅裕氏に話を伺った。



株式会社日本ビジネスデータプロセッシングセンター  
ソリューションサービス技術本部  
取締役本部長  
武田雅裕氏



### プライバシーマーク取得に合わせて導入

— 情報漏洩対策を検討された経緯を教えてください。

弊社はソフトウェア開発業務、ITサービス運用管理業務、IT統制・情報セキュリティ・ネットワーク関連業務の他に、病院の業務を請け負っている部門があり、受付・会計処理、業務の中でも重要なレセプト作成といった医療事務、また手術部の物品管理業務に至るまで、病院内で発生するあらゆる業務を代行するアウトソーシングサービス業務を行っております。メディカルサポート業務では、個人情報の中でも機微な情報を扱っていることもあり、信用拡大のためにプライバシーマークの認定を受けました。情報漏洩対策はその際に検討し、導入いたしました。

— プライバシーマーク取得の準備は、どのように進められたのでしょうか。

2002年から取得の準備を開始いたしました。まず、基本方針を策定し、運用規定を策定しました。そして、入室システムの導入、社内イントラネットの整備、情報漏洩対策のためのデータ保護ツールの選定を行いました。

— 「DocumentSecurity」導入のきっかけを教えてください。

当初、データ保護のためのツールは、「DocumentSecurity」ではなく、他社製品を導入していました。その際は、個人情報を絶対に外に出さないという運用を行っていました。ただ、出先機関も多く、社内から個人情報（社員情報）を持出さない運用規定には無理があり、データ自体の暗号化が必須となりました。そこで、ファイル単位に暗号化できる「DocumentSecurity」をメディカルサポート部門と総務等の管理部門に導入いたしました。情報を安全に流通させるという製品コンセプトが、弊社の業務形態に非常にマッチしていたからです。

### 容易な操作性と送信データも保護できる点を評価

— 「DocumentSecurity」を選択していただいた理由は何でしょうか。

弊社では、社外で作業している人が大半で、社外と個人情報等のやり取りが発生します。そのため、データを外に出した際も、セキュリティが保てる製品を探しました。4つほど製品を検討し、「DocumentSecurity」に決定しました。決定した理由は、

- ① 暗号化の操作がWord/Excelの操作と一体となり、複雑でないため使いやすい。
- ② 出先へ送信するデータにDRM（印刷/編集制御等）を適用できる。
- ③ プライバシーマーク用に整備した文書カテゴリーを適用する事が出来、常にセキュリティレベルを意識した運用が可能となる。
- ④ 既存のソフトウェアやOS環境に悪影響を与えない。

など、業務内容に則した柔軟な運用が可能だからです。



〒650-0032  
神戸市中央区伊藤町119番地  
三井生命神戸三宮ビル10階  
<http://www.nihon-data.jp/>

株式会社日本ビジネスデータ処理センターは、神戸市に本社を置き、ソフトウェア開発、ITサービス運用管理などのITソリューションサービスをはじめ、総合病院の受付・会計処理、レセプト作成など病院内で発生するあらゆる業務を代行するメディカルサポート業務までを行う「総合情報処理サービス会社」として、関西圏、首都圏を中心にサービスを提供。大阪証券取引所のセンター運用管理業務や神戸市立医療センター中央市民病院の様々な業務の代行など、特に社会インフラの要となる重要な業務に携わっている。

一 それでは、運用方法を教えていただけますでしょうか。

社内のデータはすべて共有サーバで保管しています。ユーザは全国9拠点から接続し、「DocumentSecurity」へのログインはシングルサインオンを利用しています。暗号化を行う際は、社内の文書管理規定と同じ管理手法を用いて、データの内容に応じて、個人情報文書（一般・重要・総務）／重要文書A／重要文書Bの5つのカテゴリを使用しています。ユーザは決められたルールに沿って、カテゴリを選択し暗号化だけです。そして、ログに関しては暗号化・非暗号化文書ともに、ユーザが行ったOffice文書に対する記録が、自動的にログ管理サーバへ送信される仕組みになっています。ちなみに、非暗号化文書のログ管理は、自社製品の「文録 for Office」が行っています。

## C(機密性)・I(完全性)・A(可用性)のバランスが取れており、ISMS認証時にも高評価

一 導入後の効果はいかがでしょうか。

まず、管理者側のメリットは、トラブルがほとんどないことです。また、簡単に使用できるため、ユーザ教育やサポートがほとんど不要です。暗号化が簡単に出来る

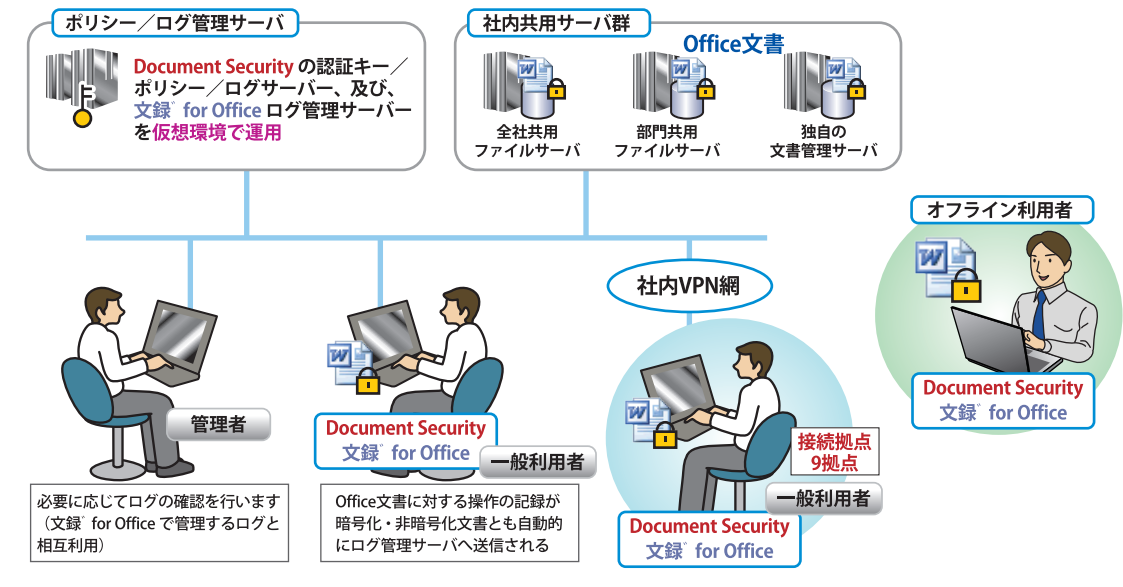
ため、新任社員は、元からのOfficeの機能と思う程度です。また、プライバシー審査だけでなく、2005年にISMSの初回認証を受けた際も、「DocumentSecurity」は評価されました。社内の規定、運用に則した柔軟なセキュリティ対策が可能な点が、評価ポイントです。PDCAサイクルを継続的に繰り返しポリシーの変更を行う場合でも、管理コンソールから一元的に設定変更出来る事も大きなメリットです。又、情報を安全に活用する事が出来ますので、C(機密性)・I(完全性)・A(可用性)のバランスが取れている事も、評価頂きました。特に可用性に優れている点が、他製品とは大きく違います。

ユーザ側のメリットとしては、ログイン、暗号化の操作は特別な操作が必要ないため、従来からの操作手順の流れを変更しなくて良い点です。また、暗号化機能を手軽に利用できる事から安心してデータの授受が可能となりました。その結果、セキュリティ意識も向上しています。

一 今後の運用について

現状、USBメモリの使用を禁止する等のデバイス制御は行っていません。それは、ファイル自体が暗号化されているので、紛失した場合でもファイルが読み取れないからです。ただ、今後はデバイス制御も検討しています。また、社内のワークフローシステムとの連携も検討しています。

### 活用および管理運用の現況について



開発元



SoftCamp Co., Ltd.

You meet the Innovation

日本総代理店



アルファシステム インテグレーション株式会社

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町1-7

TEL 03-5499-1331 FAX03-5499-0357

●詳しい情報は <http://www.alsi.co.jp/>

■お問い合わせ先